



大学入学共通テスト

1月13日(土)、14日(日)に、59期生が大学入学共通テストを志学館大学で受験しました。前日は2限目まで授業を受け、3限目に受験についての注意事項を入念に確認しました。その後は実際に自転車や市電・JRを利用して試験会場の下見を行い、最後の準備を終えました。

当日は、担任・副担任のみならず、教科担任・校長先生・教頭先生も応援に駆けつけてくださいました。以下に当日の様子を紹介します。細かな部分のミスや確認事項を次年度以降に引き継ぎ、役立てたいと思います。

- ・時間に余裕を持ち、集合してくれた。
- ・手を振りながら明るく試験会場へ入っていった。
- ・控え室では、次の受験科目の準備に余念がなかった。
- ・緊張するはずの準備時間にも、周りに中央生が大勢いることで、落ち着いていた。
- ・入室後、受験票や時計等を取りに戻る生徒がいた。
- ・2日目は、前日の経験を生かして、補食や持ち物を効率化している生徒がいた。

59期生は時間に余裕を持ち、前を向いて、良い状態で共通テストに臨んでいました。試験会場入室後の様子は先生方も見ることはできませんが、入室から試験開始・終了までの流れを生徒に後日報告してもらいました。60期以降の受験生の参考になると思います。

1月15日(月)の自己採点は、例年のマークシートに加え、WEB上の処理も行いました。今回は各教科の合計点の入力と、設問ごとの入力の2パターンがありました。入力項目に気をつけながら生徒たちは集中して取り組んでいました。この自己採点結果をもとに出願先を決定します。60・61期生は、自己採点まで含めた3日間が共通テストであることを意識してください。

1月19日(金)には、最終進路判定会が行われました。自己採点と各予備校の判定、さらに生徒の個別学力試験(以下、2次試験)で必要な科目の現状や今後の伸びしるを踏まえ、先生方の知識を出し合い、出願先と合格可能性について59期生全員について話し合いました。

後日、最終進路判定会の結果を踏まえた二者面談や三者面談が行われました。今年の共通テストでは昨年度よりも平均点が上がりました。強気の出願が増加するという情報や、ここ数年の志願倍率の変動、入学定員の増減など、多様な観点から志望校を検討しました。生徒・保護者・担任が知恵を出し合い、覚悟と決意を確認し、出願先を決めていきました。

2次試験対策開始

1月16日(火)から、2次試験に向けて、自分の受験の型に応じてコースを選択する特別授業が始まりました。予習・演習・復習の全てを必要な科目に絞るため、密度が格段に上がります。例えば、①英語②国語③小論文④英語⑤国語⑥英語⑦国語のような時間割です。

国公立大学前期日程までの約40日間は、途中で学校推薦型選抜や私立大学の受験を挟むことに加え、ハイレベルな勉強にストレスを感じる人もいます。しかし、勉強に没頭する中で、必ずそれまで積み上げてきた知識と経験が頭の中で結びついていきます。例年、深い理解と思考力、表現力が求められる2次試験対策が進んでいく中で、「勉強が楽しい」という声が上がります。正解を導き出せるという実感が、勉強を楽しく感じさせるようになります。本当に勉強が面白くなるのはここからです。

共通テストまで、60期生はあと約50週、61期生はあと約100週です。日々の学習に打ち込み、基礎基本を早期に定着させ、一日でも早く「勉強が楽しい」と感じるようになるようになってください。

数字を知る

「共通テスト+2次試験」で「合格ライン」クリアを達成するためには、その数字を知ることが必要です。

国公立大学2次試験の配点は大学によって異なります。共通テスト自己採点を元に、2次試験で必要な数字を確認しましょう。以下に例を示します。

	入試 総点	合格 平均	合格 下限	共テ傾斜 得点(例)
鹿児島大・法文・ 法経・地経・前	1000	597	552	377

※入試総点は共テ傾斜と2次配点の合計。

【2023年度入試結果。大学HPより抜粋。】

共テ傾斜得点(例)で計算すると、合格者平均まで220点です。2次配点が国語と英語で400点ですので、例えば得意の国語で120点を取れば、英語100点で平均に届きます。なお、合格ライン(下限)であれば、175点で届きます。(この数字があくまで前年の結果に当てはめたものだけということには注意が必要です。)平均以上を目指して勉強に励み、合格ラインにゆとりを持たせて本番に臨みましょう。具体的な数字を想定することで、得点ポイントを絞って勉強することができ、本番でも過度な不安を軽減させることができます。

国公立大学前期日程まであと25日。頑張れ3年生。

「来た球を打て」

1年7組 副担任 福久高文

人生には三つの坂がある。上り坂、下り坂、まさかの坂である。まさかの坂は現実にはないが、現実にはまさかの連続である。勉強はそのためにある。

君たちの生きる資本主義社会は変化することこそが常態である。次に何が来るか分からないことが多い。バッターである君たちは来た球を打つしかない。それは当然である。しかしこの当然の事実はなかなか受け入れ難い。私なども、つい、あのときこうなっていたら、ああなっていたらと、ぐだぐだ考え続ける。

来る球はいろいろである。好きな球だけは来ない。むしろ嫌な球の方が多い。向こうは自分の嫌がる球を選んで投げてくると思って差し支えない。バッターはそれを打つしかない。人はいきなり理不尽な世界に投げ込まれ、そこで生きるほかない。

もちろん現状に黙って従えと言っているわけではない。許されない状況とは断固戦うべきだ。しかし、そのためには先ず現実を受け止めるしかない。現実を受け止めずに現実を変えることなどできるはずがない。

「来た球を打て」というのは『夢』を見るなということでもある。『夢』を見る(妄想するという意味の)のは勝手だがそれを人生に持ち込んではならない。地に足を着けた「本当の夢」は来た球を打つところから始まる。しかしそれは容易ではない。

どんな球が来るか分からない。それを打てるというのはあらゆる球が打てるということである。論理的には不可能だろう。しかし大谷は打つ。無限の可能性に対応できるのは神だけである。だからもちろん打てないときもある。しかし打ったときは、不可能を可能にしていると言っている。

なぜ打てるのか。それは、数学の問題を解くとき、解答の方針がなぜひらめくのかとか、キーセンテンスがなぜ分かるのか、というのと同じ疑問である。その方法は教えられない。しかし、なぜ打てないかは言える。『夢』を見るからである。

人間には分析的理解である分別智に対して直接的理解である無分別智というものがある。いわゆる直観である。唯の偶然である「勘」とは違う。宝くじを当てるのとは全く別のことである。それは無から湧いてくるように感じられるが、そうではない。数学の勉強を何もしない人が数学的にひらめくことはない。本を読まない人がキーセンテンスを見抜くこともない。

あることに対して学習を積み重ね、その知識同士が複雑な過程を経て、ある出来事に対して思いもかけない回路が瞬時に形成される。バッティングも同じである。高度の集中した経験の積み重ねが身体に学習され、来た球に身体が反応する。分析的思考ではできないことを瞬時に可能にする。

見えるところだけ鍛えてもだめだ。背中を鍛えなければ一流の選手にはなれない。来た球を打つ。それは難しいことである。しかし今の自分の判断で自分を限定してしまったらそこまでである。後は下り坂しかない。受験も同じだ。君たちがこれから二年間かけてそれを突破するには、あらゆる教科に興味を持ち、貪欲に吸収し、それを無分別智という総合的智にまで高めなければならない。学ぶとはそこまで行くことである。

雑記多感 ～生成 AI は夢を見るか？～ 2年2組 担任 白濱 啓二

○生成 AI の話題があちこちで聞かれるようになってきました。そこで、「流通情報量」と「情報消費量」の推移について Google Bard という生成 AI に質問してみました。

*総務省によると「流通情報量」とは「各メディアを用いて、情報受信点まで情報を届けること」、「情報消費量」とは「情報消費者が、受信した情報の内容を意識レベルで認知すること」と定義されているようです。

例を挙げると、「流通情報量」とは「インターネットでブログ記事を伝送し表示する」や「書籍を全国の書店で販売する」ことで、「情報消費量」は「ブログの記事を読む」ことや「購入した書籍を読む」こととなります。

質問は、『2006年、2007年、2023年の流通情報量と情報消費量の推移を教えてください。』です。

*なぜ2006年と2007年をチョイスしたと思いますか？

Google Bard の回答は次の通りでした。『2006年の流通情報量は1.1ゼタビットで、情報消費量が0.6ペタビット、2007年の流通情報量は1.3ゼタビットで、情報消費量が0.7ペタビット、2023年の流通情報量は4.5ゼタビットで、情報消費量が2.3ペタビット。』

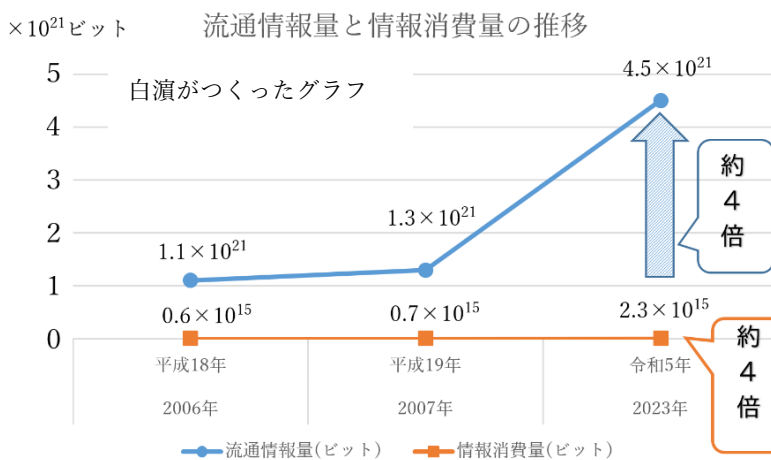
よくわからなかったので、表を作ってみました。皆さんは文章からイメージできましたか？

白濱がつくった表	2006年 平成18年	2007年 平成19年	2023年 令和5年
流通情報量(ビット)	1.1×10^{21}	1.3×10^{21}	4.5×10^{21}
情報消費量(ビット)	0.6×10^{15}	0.7×10^{15}	2.3×10^{15}

1ゼタビットは、地球上の人口の約1000倍の人数分の写真を保存できる量です。

* 10^9 : G(ギガ), 10^{12} : T(テラ), 10^{15} : P(ペタ), 10^{18} : E(エクサ), 10^{21} : Z(ゼタ)

やっぱりよくわからなかったので、グラフ化してみました。皆さんは表からイメージできましたか？



Google Bard の概要を引用すると、『このグラフから、流通情報量と情報消費量は、ともに急速に増加していることがわかります。2006年と2023年を比較すると、流通情報量は約4倍、情報消費量は約3倍に増加しています。

この増加は、インターネットやスマートフォンの普及による情報通信技術の進歩が大きく影響しています。2006年には、携帯電話の普及が進んだことで、情報消費量が大幅に増加しました。また、インターネットの普及も進み、WebサイトやSNSなどの情報源が増え

たことも、情報消費量の増加につながりました。

2023年には、スマートフォンの普及がさらに進んだことで、情報消費量はさらに増加しました。また、5GやIoTなどの技術革新により、情報の生成・流通・消費のスピードがさらに加速したことも、情報消費量の増加につながりました。

今後も、情報通信技術の進歩や社会の変化により、流通情報量と情報消費量はさらに増加していくと考えられます。』

さて、ここまで読み終えた皆さんは、今回の文章に隠されたいくつかの「しかけ」に気づきましたか？生成 AI は便利なのですが、できあがったものを確かめる必要がありますね。

世の中に出回る情報量は途轍もないものになってきました。その中で、『自分に必要な情報をどうやって得るか？』『その情報が本当に正しいかをどう判断するか？』などと情報の取捨選択や処理する速度の向上が必要になりそうです。受験にフライングはありません。悲観的に計画を立てながら、大事な場面を『こんなこともあるかと…』と不敵な笑みを浮かべて乗り越えてほしいものです。

未来

3年2組 担任 吉村 麻紀

約1か月後に皆さんの多くは国公立大学一般選抜前期日程を受験します。出願を終え、毎日の学習が合格につながっていくと確信を持って取り組んでいる日々でしょう。

英作文の練習問題を解いていると、出題者の背景を想像せずにはいられなくなるものがあります。

例えば、

- ① 驚いたことに、ついさっきまで妻がいた所に、1匹のキツネが座っていた。(福岡女子大学)
- ② 私の妻はいつも私に痩せるように言っている。(中部大学)
- ③ おすすめのレンタカーの会社はありますか?(愛知県立大学)
- ④ 私はあまり食べないのに、半年で5キロも太ってしまった。(中央大学)

こういった問題には英文に訳すよりもツッコミをいれたいくなります。

答えが気になる人へ解答例です。

- ① To my surprise, a fox was sitting where my wife had been just a moment before.
- ② My wife always tells me to lose weight.
- ③ Are there any rental car companies that you can recommend?
- ④ Although I have not eaten much, I have put on five kilograms over the last half year.

解答例を見ると、受験者に使ってほしいフレーズや構文が伝わりますが、出題者の遊び心も感じます。

本番までにたくさん難しい長文を読み、厄介な和文英訳をさせられますが、上記のような面白いものもあるので、読みまくり書きまくりましょう。

さて、ヴィクトル・ユーゴー(詩人)の言葉を送ります。

「未来」は、いくつもの名前を持っている。
弱き者には「不可能」という名。
卑怯者には「わからない」という名。
そして勇者と哲人には「理想」という名、
である。

どんな未来を選択するかは皆さん次第。

合格して進学して、楽しく学生生活を送る夢を描けば、未来は必ず明るくなります。

最後まで希望を捨てちゃいかん。あきらめたらそこで試合終了だよ。(スラムダンク 安西先生の言葉)